

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要（2024年度）

＝ 学位授与の方針（ディプロマポリシー） ＝
〈人文学部〉

人文学部は、カトリシズムの精神に基づき、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育と、各学科における高度な専門教育を行い、所定の単位を修得し、次のような力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 明瞭な根拠に基づいて理論的に思考し、判断する力を有する。
2. 生涯にわたって、主体的に学び続ける力を有する。
3. 自らの考えを表現するとともに、他者との意思疎通を図ることのできる言語能力を有する。
4. 自らの教養と専門性に基づいて、他者と協調して社会に貢献することのできる力を有する。

〈人間文化研究科〉

カトリシズムの精神にのっとり創設されている長崎純心大学大学院人間文化研究科は、博士前期課程（前期2年、学位：修士）、博士後期課程（後期3年、学位：博士）で構成されている。研究分野は文化、福祉、心理、教育・保育の分野からなり、各分野においてその学術理論及び応用実験を攻究し、その成果をもって文化、社会の発展に寄与することを目的としています。

博士前期課程

この目的を達成するための指針

1. 各研究分野における幅広い学問の基礎的能力
2. 高度な専門知識と倫理観をもとにした多角的思考力と分析力
3. 専門領域における問題解決力と専門職としての実践力

これらを身につけた上で修士論文または特定の課題の研究成果の審査及び最終試験に合格したものに、学位（修士）を授与します。

博士後期課程

この目的を達成するための指針

1. 十分な学術専門知識
2. 新たな知を創造する研究能力
3. 各研究分野における優れた学術的な成果

これらを満たした上で博士の学位論文の審査及び最終試験に合格したものに、学位（博士）を授与します。

＝ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー） ＝
〈人文学部〉

【教育課程の編成】

人文学部では、学位授与の方針（ディプロマポリシー）を達成するために4年間のカリキュラムを「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」の3つの科目群によって編成します。

【教育内容・方法等】

「基礎科目」は、人文学部の全学生に共通の科目群であり、思考力、判断力、表現力の基盤となる教養、外国語の運用力、情報処理能力並びに健康の基礎を身に付けるとともに、地域社会の具体的な課題把握と解決のために主体的に学ぶ力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「基幹科目」は、各学科が目指す人材養成の目的を達成するために設けられた専門の科目群で、社会における自立のために必要な力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「応用科目」は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学芸を知的かつ道徳的に理解し、応用する能力を習得します。授業は、人文学部の全学生が執筆する「卒業論文」の執筆につながる少人数のゼミナールである「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」で行います。

〈人間文化研究科〉

本研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した能力を取得させるため、次のような体系的な教育課程を編成し、身につけるべき力を定めています。

博士前期課程

1. 博士前期課程には、統合科目、基軸科目、展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2. 本課程では、統合科目を履修し、また、他分野の基軸科目を履修することが可能であり、それによって多角的思考力や分析力を身につけます。
3. 本課程では、専門分野の基軸科目、展開科目を履修することによって専門分野における問題解決力、専門職としての実践力を身につけます。

博士後期課程

1. 博士後期課程には基軸科目、総合展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2. 本課程では、基盤科目の履修により、十分な学術専門知識および新たな知を創造する能力を身につけます。
3. 本課程では、統合展開科目により各研究分野で学術的な成果を上げるための実行力を身につけます。

= 学習成果の評価（アセスメントポリシー） =

〈人文学部〉

人文学部全体としての学修成果の評価は、①学習時間・学習経験等に関するアンケート調査、②全科目を対象とする授業アンケート、③GPA並びに単位取得状況によって行います。

講義科目は、知識の習得に加え、論理的思考力、記述力、読解力、発言力について学期末試験、授業内で臨時試験、レポート提出、リアクションペーパーなどによって評価します。

演習科目は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学生を知的かつ道徳的に理解し、応用する力について、論文やレポート提出、プレゼンテーションなどによって評価します。

〈人間文化研究科〉

博士前期課程

学修成果に対する評価は、以下の3点を総合的に評価します。

1. 履修した授業科目の成績
2. 提出される学位請求論文に係る研究発表
3. 学位請求論文

博士後期課程

学修成果に対する評価は、以下の3点を総合的に評価します。

1. 履修した授業科目の成績
2. 提出される学位請求論文に係る学内外での研究発表
3. 学位請求論文

= 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー） =

〈人文学部〉

長崎純心大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づき「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」を教育研究の指針としています。学力は豊かな人間性がそなわって知恵となり、人と世界に役立つとき、真の力となるからです。この指針のもと、本学人文学部は、文化コミュニケーション学科、地域包括支援学科、こども教育保育学科によって構成されています。

各分野において高い専門性を有し、人と世界に奉仕できる人間を育成することを使命とする長崎純心大学は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、高等学校までに習得すべき基本的言語運用能力を身につけた以下のような※入学生の受け入れを目指しています。

注）※は学科ごとのアドミッションポリシーを記載。

〈人間文化研究科〉

本研究科は、設置の目的と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のような学生を受け入れます。

博士前期課程

1. 専攻する各研究分野について強い志向性と創造力のある人
2. 研究を遂行する上での基礎的学力を有する人
3. 外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。さらに、臨床心理学分野においては、公認心理師として社会に貢献するために必要な心理学についての学部レベルの学力及び英語力を有する人を選抜するため、口頭試問に加え筆記試験を課します。

また、入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。

博士後期課程

1. 専攻する各研究分野に関する十分な学術専門知識を有する人
2. 学術研究能力があると認められる人
3. 外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。口頭試問においては修士論文等や研究計画書を基にした質疑応答を通して、学術専門知識、学術研究能力、総合的思考力を判断します。

(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

学校法人純心女子学園第4期中期目標・計画（2022年～2026年度）を策定し、「5年後にありたい姿」として、8割以上の学生が本学での教育及び学生生活に満足できるようにすること、学生の望む成長を教職員全員が全力でサポートすることを中期戦略目標に設定した。2024年度においては、それぞれの項目で点検・評価を実施した。2024年度の点検・評価を踏まえ、次年度以降の行動計画実施に向け、引き続き全力で取り組んでいく。

2024 年度における各事業所においての主な活動は次のとおりである。

長崎純心大学

1. 教育・研究

- ・大学基準協会認証評価受審し適合評価を受けた。
- ・人文学部 2 学科の名称変更（文化コミュニケーション学科→言語文化情報学科 地域包括支援学科→福祉・心理学科）による新入生を迎えた。
- ・学生対象に大学教育や社会進出後に必要とされる汎用的能力を測定するGPS-Academic を実施した。
- ・基本方針の策定（授業実施方針、生成AIの利用に関する基本方針及び取り扱いに関する留意事項）
- ・WEB学生カルテの運用を開始した。
- ・ボランティア活動の単位化の検討を行った。
- ・入学前教育としてリモート交流座談会（2/15）、学科別プレ講座（3/4）を実施した。
- ・科学研究費採択について、研究代表者「学術研究助成基金助成金」に8件応募し2件採択された。
この他継続課題、研究機関延長6件、分担担当継続課題3件
- ・IR調査 卒業後アンケート実施 [9月] 遠隔授業実施に関する調査 [7月]

2. 学生・キャリア支援関係

- ・学生表彰
早坂成績優秀者奨学金表彰式を実施し59名の学生を表彰した [6/22]。
一般社団法人ソーシャルワーク教育学校連盟、公益財団法人日本介護福祉士養成施設協会、長崎市老人福祉施設協会より、4名の学生が表彰された。
- ・年間をとおして学内で企業・福祉施設・幼稚園説明会等を実施した。
[説明会29回、進路研究17回、セミナー8回]
- ・国家試験合格状況(社会福祉士35名、介護福祉士7名、精神保健福祉士8名)
※社会福祉士現役合格率88.6%(過去最高)
- ・公立学校教員採用試験合格状況(小学校教諭30名、中学校国語6名、中学校英語3名、高等学校英語2名)
- ・公認心理師合格状況6名

3. 教職員研修

- ・防災訓練 [8/29] ※職員のみ
- ・SD研修会 [8/21]
テーマ：「長崎純心大学の挑戦－教職協働で教育の充実－」
- ・FD研修会 [3/7]
テーマ「地域連携による大学教育の質的向上を目指して」
- ・カトリック委員会主催バス研修 [11/9－11/10]
「津和野 乙女峠への祈りの旅」参加者：大学教職員10名、幼稚園教員1名

4. 入試広報活動

- ・県内及び県外の一部地域の高等学校進路担当者を招き進学懇談会開催を開催した [6/26]。
- ・入試制度の改革
離島特別選抜の設置
学園内B選抜の対象に、純心女子高校と教育連携を締結している長崎南山高校を加えた。
- ・オープンキャンパスを開催した [7/27 (土), 8/10 (祝), 8/24 (土), 3/22 (土)]。
- ・年間をとおして進学ガイダンスに参加し学生募集活動を行った。
- ・年間をとおして県内高校を訪問し学生募集活動を行った。

5. 施設・設備関係

- ・体調不良学生の一時的利用を目的とした保健室分室をC棟1階に設置した。
- ・防犯予防の観点から学内手洗い付近に防犯カメラを設置した。
- ・T棟屋上、機械室屋上の防水工事を実施した。
- ・S棟L棟空調工事

6. 生涯学習・地域貢献・地域連携

- ・純心長崎学講座「キリスト教の伝来」[5/11～7/6 全9回：受講者33名]
- ・心理教育センター講演会「マインドフルネスとこころの健康」[5/25：受講者86名]
- ・長崎・キリシタン文化研究会
「Black 侍、弥助～ヴァリニャーノと信長に仕えた黒人侍」[6/1：受講者66名]
- ・TOEICに備える特別セミナーPart1「TOEICテスト受験準備講座」[7/27：受講者12名]
- ・TOEICに備える特別セミナーPart2「TOEICテスト受験準備講座」[10/9：受講者13名]
- ・TOEICに備える特別セミナーPart3「TOEICテスト受験準備講座」[12/14：受講者12名]
- ・第47回純心博物館講座
「対談 平山理（日本画家 純心中高教諭／塩月悠 洋画家 本学人文学部准教授
一博物館企画展示「平山理日本画展 長崎ー変わらぬ景色を探してー」関連事業[10/20：受講者41名]
- ・博物館展示
武文桜監修 群像人形「竹取物語」展[2/13～4/12]
キリスト教の伝来と発展[5/13～7/5]
長崎と原爆ー平和を願う 想いをつなぐ[7/10～8/24]
平山理日本画展 長崎ー変わらぬ景色を探してー[10/4～10/28]
世界のクリスマス展[11/25～1/10]
新収蔵品と山下南風展[2/25～「6/14」]
- ・地域連携センター主催公開シンポジウム「まちづくり・地域づくりと若者」[11/9：受講者46名]
- ・第36回児童教育研究所公開講座「大都市を中心とした保育士確保施策の展開と地方圏の保育労働市場への影響ー経済地理学からの分析ー」[11/16：受講者30名]
- ・第47回純心英語教育公開講座
「あなたも英語達人ー実践研究が解き明かす上達の秘訣ー」[11/30：受講者37名]
- ・JunshinCup 英語オーラルコミュニケーションコンテストを開催した。[10/26日]
- ・たっしよしトーク！かわひら報告会[6月15日（土）]
- ・地域連携活動「平和町商店街の夏祭り」に参加した[8/17]。
- ・地域連携活動 石丸文行堂主催「ごほうびフェスタ」に参加した[7/13～7/14]。
- ・「川平地区まちづくり協議会」が発足し会員となった。

7. その他

- ・後援会総会・保護者会開催[5/18]
- ・名誉教授称号授与式挙行[6/29]
片岡瑠美子教授、古賀義教授、濱田洋子教授、山脇美代教授、岩下康夫教授(欠席)、畠山均教授(欠席)に名誉教授の称号が授与された。
- ・県内キリスト教系4大学合同で日本被団協のノーベル平和賞受賞を受け共同声明を行った。
- ・純心女子高校との高大連携プログラム～大学の研究室を知る～(探究発表、研究室訪問)を実施した[4/23]

総括

2024 年度の教育・研究分野の大きな取り組みとしては、大学等の教育研究の質の担保を図るため、大学等の組織運営や教育研究活動等の状況を定期的に確認するために、7 年ごとに義務付けられている認証評価を受審し評価を受けたことである。本件については、2025 年 3 月に「適合」評価を受けた。

しかし、内部質保証体制をはじめとするさまざまな問題点や今後の改善事項が付され、今後計画的に改善に取り込んでいく必要がある。

学生・キャリア支援関連では、教員採用試験において好結果を残すことができた。また、国家試験では、社会福祉士において、過去最高の現役合格率を達成した。このような結果が出せたことは、学生本人の努力はもちろんのこと本学教員の手厚い受験対策指導の成果である。

生涯学習・地域貢献・社会貢献関連では、例年どおり一定の公開講座、講演会等の開催をすることができた。今後は、公開講座の拡充を検討し、本学の教育研究を積極的に地域に発信していきたい。

10 月に発足した「川平地区まちづくり協議会」は、長崎市のコミュニティ事業である。今後、自治会が中心となって、企業、教育機関等が連携し、まちづくり活性化のためにさまざまな事業を計画し実施していく予定である。本学も川平地区にある大学として、このコミュニティの会員となった。今後、さまざまな事業をとおして、本学学生、教職員と地域住民との交流を深めていきたい。

喫緊の大きな課題は学生数の確保である。少子化が加速する中、学生募集は年々厳しさを増している。2019 年度より全学科で男女共学化し、一時的に入学者を増やすことができたが、直近 3 年間は入学定員を満たすことができていない。2024 年度も、一部で学科名称変更やカリキュラムを改正し学生募集対策を行ったが、学部全学科において入学定員を満たすことができなかった。

大学は淘汰されていく時代において、本学がこの先どのように学生を確保していくか早急に対応策を講じる必要がある。

純心中学校・純心女子高等学校

1. 教育活動

1) 令和6年度の教育目標 「いっしんに」 一心・一新・一進

- ・識別する（マタイ 9.17）
- ・日々新たな気持ちで
- ・90周年に向けて

2) 学校行事について

例年通りの行事实施となった。

体育大会を9/10（火）午前中のみで実施した。コロナ禍前に戻す（一日実施）計画であったが、熱中症予防のため午前のみの実施となった。

11/2（土）外部公開の学園祭が大雨のため中止となり、生徒は臨時休校（家庭学習）となった。生徒たちが頑張って準備してきたこともあり、11/5（火）展示、クラス企画等、生徒、保護者、教職員、純心幼稚園関係者のみで実施した。その中で、中高では初めての試みであったが、育友会主催のキッチンカーに生徒たちが大変喜び、列をなした。

中学生の職業体験を十数年ぶりに実施した。今後も継続の方向である。

修学旅行は高Ⅱが関東方面、中Ⅱが沖縄で実施した。来年度から中学は中学3年次に実施の計画である。

3) 校外活動について

①海外研修

- ・テレサ高校訪問（韓国）・・・5/23（木）～26（日） 生徒15名 引率教員2名
- ・テレサ高校受け入れ 11/30（土）～12/3（火） 生徒15名 引率教員2名
- ・純心三姉妹校合同 春休みシリコンバレエアントレプレナーシップ研修・・・
3/24（月）～4/4（金）2名参加 *個人：中国への短期留学（3ヶ月）

②部活動・諸大会結果（上位入賞）について

*長崎市中体連の協議により、長崎市中総体を学校行事から外すことになり、全校応援がなくなった。（休日の応援は個人判断で可能、決勝戦等の全校応援は学校判断）

・運動部関連の活躍

（高）ハンドボール部：高総体優勝（21年ぶり） →九州大会出場ベスト8 →インターハイ出場 / 全日本選手権県大会優勝 →九州大会出場 / 県新人大会優勝 →九州大会出場

（高）バレーボール部：高総体8位 / 全日本選手権県大会8位

（高）陸上部：高総体総合3位 各種競技上位入賞 →北九州大会出場 上位入賞 →インターハイ出場（個人7種目） *諸大会、記録会等で個人、リレーなど各種上位入賞、新記録樹立を果たす / 国スポ選手として2名選出

（高）弓道部：高総体個人5位 →九州大会出場 / 県私立高等学校大会個人優勝

（高）空手道部：高総体個人形3位 / 県新人大会団体形優勝、個人形優勝・準優勝 →九州大会出場

（中）バスケットボール部：市・県中総体優勝 →九州大会出場 / 全国U15選手権県大会優勝 →全国大会出場

（中）バレーボール部：市中総体優勝 →県中総体出場

（中）体操部：市中総体個人3位 →県中総体出場

（中）空手道：団体組手3位

・文化部関連の活躍

（高）美術部：県高等学校総合文化祭「美術部門」優秀賞 →九州大会出場

（高）写真部：県写真展（個人）優秀賞 →九州大会出場

（中高）音楽部：九州合唱コンクール県大会金賞 →九州大会出場（9月）

③個人的な活躍

- (高) 少林寺拳法 九州大会 →インターハイ出場
- (高) 県高等学校音楽コンクール ピアノ部門個人金賞 →九州大会出場
声楽部門個人金賞 →九州大会出場
- (高) 県高等学校スピーチコンテスト個人 →九州大会出場
- (中) 高円宮杯全日本中学英語弁論大会 県大会準優勝 →全国大会出場
- ・全日本デフジュニア・ユース陸上競技選手権大会 走幅跳優勝 (大会新記録)

④その他の活動

- * 未来の科学の夢絵画展 特別賞受賞

4) 特色ある教育としての主な活動 (探究活動と平和教育、国際交流)

①平和教育

- ・ 8月8日 国立市の小中学生の受け入れ
- ・ 8月8～9日 東京純心中高「平和の旅人」(生徒3名 教員1名) 受け入れ
- ・ 8月8～9日 原爆慰霊祭(前日 中学生による清掃奉仕)
- ・ 8月9日「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」(長崎市主催 於：平和公園) 高校音楽部とⅢ音楽選択者で「千羽鶴」の合唱
- ・ 11月 中学アドバンス同好会「原爆写真展」の実施(11月)
- ・ 長崎平和推進協会から案内のイベント参加 ・ 青少年ピースボランティア活動の紹介
／英語の被爆者紙芝居制作(ⅡGP)

②探究活動

- ・ 全学年による探究活動
- ・ 長崎純心大学での発表と研究室訪問(Ⅱ年 24.4月に実施)
- ・ 希望者による放課後の活動 (高)「薫の家プロジェクト」活動 (中) アドバンス同好会

③国際交流

- ・ Tomodachi プロジェクト / グローバルワークショップ
- ・ 国際学生文化交流会(長崎大学) 参加

④長崎純心大学との連携(純心中高大連携英語教育推進プロジェクト)

- ・ ネイティブ教員による英会話授業 / スピーチコンテスト審査員 / プレゼンテーションコンテスト審査員
- ・ 大学生による異文化体験発表
- ・ 高Ⅰ大学調べ発表 評価・アドバイス
- ・ 大学生による異文化体験発表(6,7月)
- ・ 大学生による卒業論文発表会(2月)

⑤純心南山教育連携(純南)プロジェクト

- ・ 授業系: 7月～12月 北九州予備校による受験対策講座通年(純心大学地域連携センター)
- ・ Tomodachi プロジェクト等のグローバルワークショップ / 11/6(水), 7(木) 三校(青山学院高・南山・純心)で「平和」をテーマにディスカッション / 11/16(土) クラシックマンドリンコンサート&トークショー / 「本に二度目の人生を」南山の地域ゼミに協力
- ・ 広報連携: 教育連携リーフレット作成(3作目) / 合同地区説明会

2. 教職員研修

- ①(4/26) コミュニケーションワーク「本当の指導力とは？」 講師: 園元 恭子先生
- ②(7/2) ハラスメント研修「これってハラスメント？」 講師: 弁護士 平山 愛先生
- ③令和7年度高校入試について 公立の入試形態変更について / WEB出願導入
／スカラシップ制度の拡充 他

「児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会（九州・沖縄ブロック）の伝達講習
＊新年度校務（4/3 実施）純心教育について / 「純心スピリット」に関する分かち合い

3. 施設整備・改修

- ①ロザリオ館 空調機更新（第二期）
- ②全校舎 LED 化
- ③体育館トイレ改修
- ④「希望の星の聖母」改修

4. 総括

新コース設定（AP・GP・CP）の2年目となった。各プロジェクトの特徴は出せていると感じており、生徒間でも、受験生にも理解されている。また、進級の際に志望理由書を書かせるのは一年の振り返りと生徒たちの次の学年に進む意識と進路を考える良い機会になっている。

CPの特徴を活かしたキャリアデザイン（選択講座）が始まった。時間割の関係、教員数で選択に縛りが出ているが、概ね順調に進んだ。医療・福祉コースにおいては、これまでの看護体験をはじめ、外部講師を招いて講演を聴くなどの機会を設けた。

2024年度、GP1年の在籍は増えたが、英語力等の幅が広く、力を伸ばすことが難しかった。それでも様々なことに挑戦する積極的な生徒が多く、活動的であった。海外に行く修学旅行（高Ⅱ年次）実施に向けて動き始め、壁はあったが、2025年12月にベトナムへの修学旅行が決定した。

APに関しては、このプロジェクトでいよいよあと一年で受験を迎えることになるが、これまでのⅠ類での経験を踏まえて、進路指導委員会を中心に、APとしての取り組み、方向性について検討を重ねながら進めている。

様々な活動の軸に探究をおいているが、生徒たちが前向きに取り組んでおり、修学旅行先での企業や大学訪問につなげたり、探究の成果を確認する機会がとれていて、連続性が保たれている。

生徒募集に関しては、昨年同様、できることを精一杯やってきた。専願・推薦受験と純心中卒で生徒数を確保する必要があるが、奨学金制度の拡充も行ったが、公立高校においても定員割れの状況の中、結果として生徒数を増やすことはできなかった。これまでも進学実績（国公立大学合格者数）は募集に影響があると感じていたが、厳しくなっている。さらに、今後、私学も授業料無償化ということで、部活動等の大会成績を伸ばしていくこと、本校ならではの特徴を整理し、アピールしていくことが課題である。

中学に関しては、積極的な生徒が増えてきていると同時に、様々な配慮が必要な生徒もいる。やがて、高校に入学していく生徒になるので、対応については、高校も一緒に考えていかなければならない。

1.認可定員 2 5 0 名

園児数状況

幼保連携型認定こども園	利用定員	R7(2025). 3. 1現在	備考
長崎純心大学附属純心幼稚園	2 1 0 名	2 1 2 名	

2.保育・教育目標

神様の似姿に創られたいのちを大切に、神様にも人にも喜ばれる人を育てることを目指して教育保育に努めた。毎日の教育保育の示唆としてお祈りをする子ども、心の優しい子ども、生きる力を持つ子どもを育てることを目標に“神さまから託されている 子どもを通して私は伝えたい！！愛されること 愛すること 生きる喜び“をミッションとして掲げ、を純心幼稚園の教育の実践に努めてきた。

3.教育・保育内容

- ① 神さまの似姿として創られたいのちを大切に、人に対する愛情と信頼する心を育てることを目指した。
- ② 一人ひとりの家庭環境を見極め、教育と養護のバランスに配慮しながらモンテッソーリ教育の充実を図った。
- ③ 子どもの様々な内面の要求を満たし、モンテッソーリ教育を通して宗教・体育・絵画・音楽を通して生命の保持および情緒の安定を図った。
- ④ 基本的生活習慣や言葉を身につけ、一人で出来ることに喜びを持てるように自立を促した。

4.給食の実施状況

- ① 毎月 1 回の給食検討会を持ち、楽しい食事の時間となるよう配膳、行事食、個別の対応を継続した。
- ② アレルギー体質の子どもへの対応は年々増加傾向にあり、保護者と栄養士の個別対応を実施し医師の診断書のもとに事故のないよう全職員に周知し配慮した。
- ③ 愛情弁当の日を毎月土曜日を含め 3 ～ 4 回程度。給食試食会を行い保護者様のアンケートからレシピを頂きたいとの意見も出され食育への関心が高くなって来た。インスタグラムで毎日給食の献立を配信したり、家庭からのお弁当について、食べやすいメニューや作り方などを管理栄養士の目線で保護者に伝えるなど、今後は咀嚼、嚥下等が難しいお子様が少しでも楽しい食事が出来ることをついでのメニュー、食材等の検討を行う必要性を感じる。

5.教職員研修

- ・キャリアアップ研修該当者は全員は、Web 研修でまとめて受講を完了した。研修で学び得たことを、園内研修で共有する時間を設けた。
- ・モンテッソーリ教育 0-3 アシスタントコースを 1 名受講し、ディプロマ取得に繋がる。他にも長期休暇中に体育研修に数名参加し新年度に備えた。
- ・モンテッソーリ教育は純心大学の養成コースと外部の研修情報を共有し、短時間で園内での学びを深めた。
- ・

6. 小学校連携

- ・2024年度は南山小学校と、聖マリア学院小学校の学校訪問を実施することができ、校内の見学や体験を通して、小学校入学への期待を持つことができた。
- ・今年も困り感を持つお子様に対しての巡回相談が多数となった。また、保護者からの要請で小学校の担当者と連携して専門機関の指導と園訪問を依頼するなど事例も出てきた。これまで通り、要録と併せて入学までの連携と移行について、園児が安心して小学校生活を送れるよう配慮した。

7. 長崎純心大学・純心中学校・純心女子高等学校との連携

- ・例年、純心大学の塩月ゼミ生との活動を行い、全クラスでの年齢別活動の中で、子どもたちが楽しく活動に取り組み学生との交流を図ることができた。
- ・モンテッソーリ教師養成コースの主任の林先生には、年間通してモンテッソーリ教育の環境と保育教諭の資質向上のために実習指導、現場指導と園内研修を依頼し可能な範囲で実施継続した。保護者対象でモンテッソーリセミナーもしていただいた。
- ・幼稚園・保育園実習は、積極的に受け入れを行った。
- ・中学・高等学校に関しては、農作体験や放課後のボランティア活動を定期的に計画していただいた。

8. 純心聖母会との連携

- ・純心聖母会ポプラ主催の「いこい庵」や「ちょい旅」黙想会に、職員が自由に参加できるよう声掛けを行い保育を深める助けとなった。
- ・年長児を対象に、10月のロザリオの月にはロザリオでのお祈りの仕方を、3月の感謝ミサの前にミサについてを、浦上修道院のチャペルをお借りして行うことができた。
- ・シスター方には会うたびに、声をかけていただいて、お互いに癒しの時をいただいている。
- ・保護者向けの宗教勉強会（カンターボ）は、浦上修道院の宣教センターをお借りし、人数制限をせずに、対面で行うことができた。少人数の中で子どもたちと同じ体験を通して、子育て世代の保護者支援と宗教教育への理解に繋げてきた。

9. 苦情解決第三者委員

苦情受付件数は 1年間を通してありませんでした。

10. 施設整備修繕及び修理

- ・5月～6月 屋外消火補給水槽、膨張タンク廻り配管更新工事
- ・8月 保護者会室・講義室天井壁紙補修
- ・8月 すみれ・ランチルームエアコン修理
- ・11月 ホールカーテン一部取替工事
- ・11月 ステージボタン取り外し工事

11. 総括 2024年度の主な実施事業報告について

2024年度は、2023年度中に保護者の方の転勤に伴って、転園児が多く、これまでと比べると全体数が減少したが、在園している子ども達への教育・保育を充実を図った。また、外部からの働きかけなどに積極的に応え、新たに取り組むことも多く、子ども達が楽しい経験を積む機会となった。

また、モンテッソーリ教育や宗教教育について、園児だけでなく、保護者への勉強会も継続して実施することが出来た。今後も純心教育の特徴を活かしモンテッソーリ教育・宗教教育を通して教育保育の充実を図りたい。

課題として、今後もホームページのブログや、インスタグラムなどを活用し、外部への情報提供を充実させていきたい。また、子育て支援を更に充実させ、満1歳児から満2歳児をお持ちの子育て世代の保護者支援とその社会ニーズに対応できるよう園全体で研鑽していく必要がある。